Honda の交通安全情報紙　SJ 2018 年 10-11 月号（No.492）10 月 19 日発行

10-11 2018 OCT.NOV.

平成 30 年北海道胆振東部地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up　クローズアップ　教育プログラム

「わが子の命を守るために」幼児の保護者向けプログラムが完成

Honda は様々な年代や社会のニーズに合わせた交通安全教育プログラムを開発し、地域の交通安全指導者に提供している。幼児期は交通安全の基本を吸収する大切な時期だが、最も身近にいる保護者の安全意識が低ければ、教育の効果も薄れてしまう。保護者の意識を高めたいという声は地域の交通安全指導者からもあり、幼児の保護者を対象としたプログラムを開発した。

子どもへの交通安全教育に熱心で、
保護者のあるべき姿を示しているお母さん（本編映像「歩き方」より）

安全意識が低いお母さんの行動を見せて、
保護者に思い当たる部分がないか振り返ってもらう（本編映像「歩き方」より）

幼児の保護者に交通安全への意識を高めてもらう

地域の交通安全指導者から聞かれるのは「一般的に交通安全教育は幼児期から始まるが、幼児に守るべき交通ルールを教えても、その後の保護者の言動によって台無しになってしまうことがある。したがって、保護者にも交通安全の重要性を再認識してもらうためのプログラムがほしい」という声が多くあった。

完成したプログラムは、小学校入学前の幼児を持つ保護者に対して、危険な交通場面の映像と資料から自分の行動を振り返り、子どもの安全を守るためにすべきことに気づいてもらうことを目的とし、5 つのテーマからなる本編映像（①歩き方、②自転車 保護者、③自転車 こども、④自動車、⑤ルール、マナー）および資料集で構成されている（2 面参照）。①～⑤の本編映像と資料集はそれぞれ単独で選択できるため、交通安全指導者が幼稚園・保育園などの要望や実施時間に応じて組み合わせをアレンジできるようになっている。さらに、保護者との対話型構成になっている点も、このプログラムの特徴だ。

本編映像は 2 人の保護者（お母さん）の交通安全に対する意識や行動を比較することで、子どもを事故から守るためにはどのように行動するべきかを考えてもらう内容となっている。例えば、「歩き方」では、お母さんが子どもと常に手をつなぎ、信号が青でも曲がってくるクルマがあるので渡る前に右、左、右を観ることを教える。しかし、もう一方のお母さんは信号が青点滅になった時、一人で先に渡ってしまい、横断をやめようとする子どもを「早く行くよ」と呼びつける。そして、お母さんに向かって走る子どもが右折してきたクルマと接触してしまうところで映像は終わる。

その後、このようなケースで事故を防ぐためにはどうしたらいいか、交通安全指導者が保護者へ問いかけ、考えてもらう。保護者からいろいろな意見を引き出せるようコーチングの手法を取り入れているのである。最後に、資料集を使って事故を起こさないようにするためのポイントを解説する。このほか、「自転車 保護者」では幼児用座席に子どもを乗せたまま、お母さんが自転車を離れた時に転倒してしまう事故の再現映像を見せるなど、保護者に思い当たる部分がないか振り返ってもらえるようになっている。

幼児の保護者向けプログラムは、8 月 23 日、24 日

Contents

P1　Close Up クローズアップ 教育プログラム
P3　Safety Report セーフティルポ ライダー
P4　Close Up クローズアップ 交通教育センター
　　Close Up クローズアップ 福祉安全運転
P5　SJ Interview　滋賀医科大学医学部教授 一杉正仁さん
P6　All About SAFETY 安全をいかに創造するか
P7　Safety Info. インフォメーション
P8　危険予測トレーニング（KYT）
　　SJ クイズ

SAFETY-JAPAN　Safety for everyone

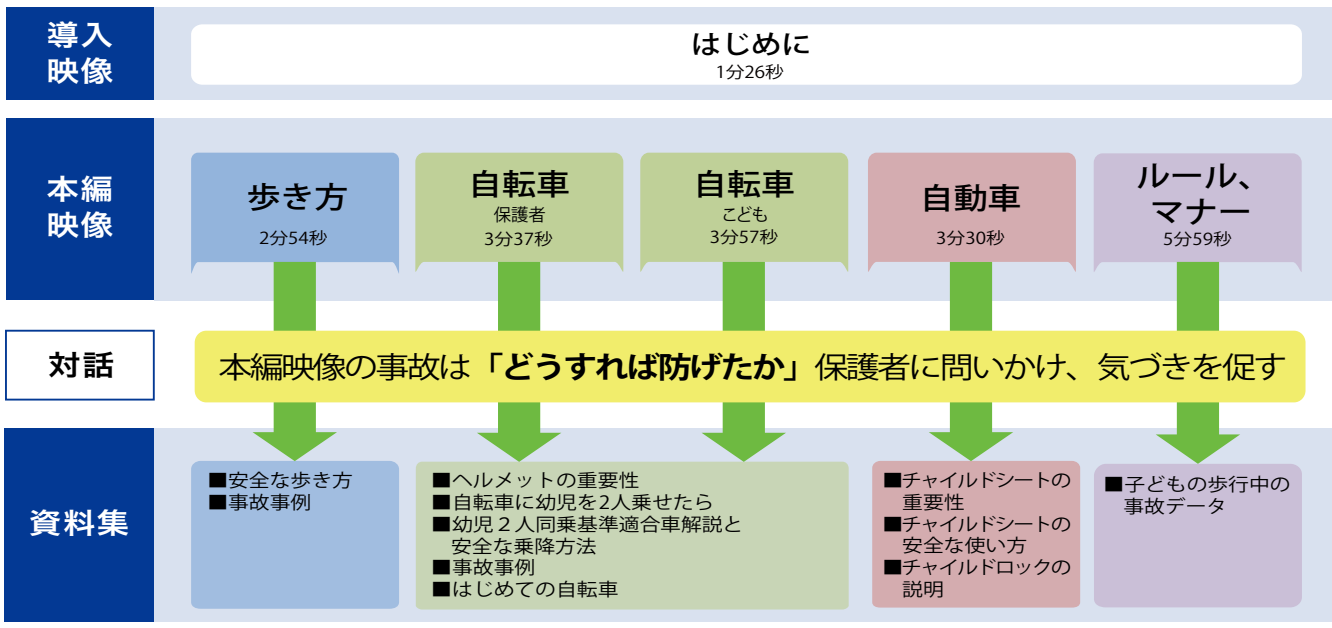
Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは　ホンダ　SJ　検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒 107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/
編集人：中嶋英彦

※ご不明な点がございましたら、下記までお問合わせください。
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

幼児の保護者向けプログラム 概要



「幼児の保護者の方へ わが子の命を守るために」

活用を希望される自治体、警察、団体の方は
下記宛にお問い合わせください。
本田技研工業（株）安全運転普及本部 地区普及課
TEL 03-5412-1150

DVD に導入映像、本編映像、資料集を収録

に東京都内のホテルで地域の交通安全指導者を対象にHonda が開催した交通安全教育プログラム勉強会で発表された。参加者からは「小学校入学前の保護者が出席する交通安全教室で活用してみたい」「今はしていないが、こうした教材があるのであれば今後、保護者向けの指導をしていきたい」という声が聞かれた。

交通安全指導者の知識と経験を新たなプログラムの開発に活かす

交通安全教育プログラム勉強会は 2015 年から毎年開催しており、今年は 19 地区から交通安全指導者 30 名が参加した。参加者が相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、指導力の向上に役立ててもらうこと、参加者の知識と経験を新たなプログラムの開発に活かすことを目的としている。

今回のテーマは「小学校高学年・中学生を対象としたプログラム」。1 日目は参加者が日頃、小学校高学年・中学生向けの活動内容や指導に活用している手づくりの教材を紹介した。

2 日目は参加者が 5 つのグループに分かれて討議となる。それに先立って、参加者が小学 3 年生以上を対象に実施しているのは自転車教室がほとんどであることを Honda 安全運転普及本部のスタッフが伝えた。こうした実態から、小学校高学年・中学生に何をどのように伝えるべきか討議する。まず、一人ひとりが普段の指導で子どもたちに伝えきれていないこと、伝えているが子どもたちの安全行動につながっていないことを付箋に書いて貼り出していく（現状把握）。次に、グループで重要だと思うものを 3 点に絞り込み（問題整理）、それらをわかりやすく伝える方法についてアイデアを出し合う（対策の検討）。最後に、グループごとに討議の結果を発表し、2 日間にわたる勉強会は終了となった。

勉強会で出された意見やアイデアは今後、小学校高学年・中学生向けの新たなプログラムの開発に活用される予定だ。

交通安全教育プログラム勉強会の開会にあたって挨拶する
Honda 安全運転普及本部の中嶋英彦事務局長

札幌市白石区交通安全運動推進委員会の指導者が紹介したのは、自転車の交通ルールを理解してもらうために活用している「ちがうのどれ？」というクイズ

山形市役所の指導員はクルマの内輪差による左折巻き込み事故を
わかりやすく伝えるための教材を紹介

グループ討議を通じて、各々の意見から重要だと思うものを絞り込む

グループごとに小学校高学年・中学生に何をどのように伝えるべきか討議した結果を発表

勉強会に参加しているのは交通安全教育の現場で活躍する指導者
（写真提供：静岡県交通安全協会）